

建物概要

■構造/主 屋：木造平屋建中2階付本瓦葺
 離れ：木造2階建本瓦葺
 物置(2棟)：木造平屋建瓦葺
 井戸上家：木造平屋建瓦葺

■延床面積/主 屋：139.83㎡
 その他：67.39㎡
 合計：207.22㎡

■建築年代/主 屋：天保8年(1837年)

龍野城の歴代城主

・赤松氏(4代) 赤松村秀-政秀-広貞-広英

永正3ごろ~天正5(1506ごろ~77)

蜂須賀正勝(5.3万石) 天正 9~天正13(1581~85)

福島 正則(5万石) 天正13~天正15(1585~87)

木下 勝俊(6万石) 天正15~文禄 3(1587~94)

小出 吉政(2万石) 文禄 3~文禄 4(1594~95)

本多 政朝(5万石) 元和 3~寛永 3(1617~26)

小笠原長次(6万石) 寛永 3~寛永 9(1626~32)

岡部 宣勝(5万石) 寛永10~寛永13(1633~36)

京極 高和(6万石) 寛永14~万治 1(1637~58)

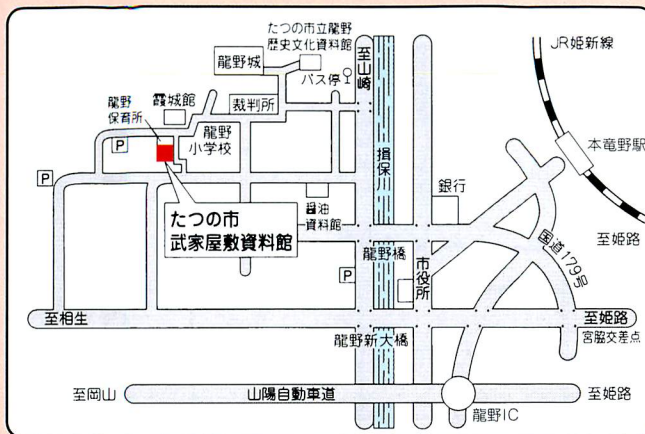
・脇坂氏(10代) 脇坂安政-安照-安清-安興-安弘-
 安実-安親-安董-安宅-安斐

寛文12~明治4(1672~1871)

利用案内

■アクセス

- ◆新幹線/JR姫路駅・相生駅より車で30分
- ◆在来線/JR姫新線本竜野駅より徒歩15分
- ◆山陽自動車道/龍野ICより10分
- ◆中国自動車道/山崎ICより30分



■所在地/〒679-4179

兵庫県たつの市龍野町上霞城45番地

☎0791-63-9111

■開館時間/午前10時~午後4時

■休館日/月曜日(祝日と重なった場合は翌日)
 祝日の翌日、年末年始(12月29日~1月3日)
 その他、臨時休館あり

■入館料/無料

■使用料/無料

■使用申し込み

たつの市 都市建設部 町並み対策課

〒679-4192 兵庫県たつの市龍野町富永1005番地1

☎0791-64-3167(直通)

たつの市 武家屋敷資料館



〒679-4179

兵庫県たつの市龍野町上霞城45番地

☎0791-63-9111

武家屋敷資料館概要

■武家屋敷の公開

龍野の町は、城下町として知られていますが、武家屋敷のようすを具体的に知ることのできる場がありませんでした。そこで、国土交通省の街なみ環境整備事業により、この武家屋敷をまちづくりのための集会所及び資料館として保存整備し、公開・活用することにしました。

この武家屋敷資料館は、建物自体を資料とした考え方で整備を行っています。特別な資料の展示をしていないのはそのためです。

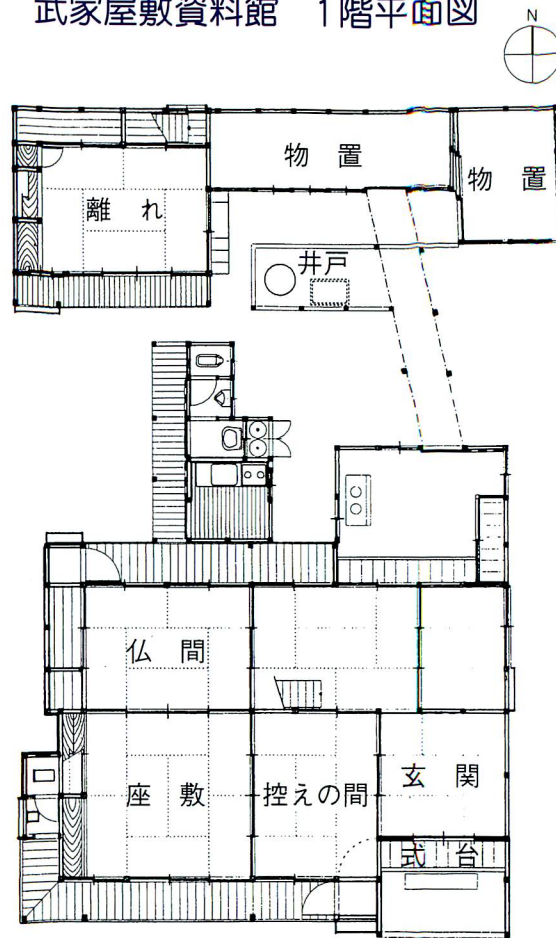
■建物のあゆみ

この建物の敷地は、寛政10年(1798)の龍野城下町絵図では、「芝辻平左衛門 自分建」とあり、元々、鉄砲師や鍛冶職として仕えていた家系の、芝辻平左衛門の屋敷であったことが明らかとなっています。敷地内の建物のうち、主屋は江戸時代から継承されてきたもので、明治から昭和にかけて、離れの改築と、2階居室や水回りなどの改造がおこなわれ、ごく最近まで住宅として使用されていました。

主屋の建築年代は、棟の鬼瓦銘に見られる天保8年(1837)前後と推定されます。決して規模の大きな屋敷ではありませんが、当時の龍野城下町において、およそ二人扶持、御流格もしくは御盃格の武家が生活した住宅として貴重な遺構といえます。東南隅の式台のついた玄関から入り、控えの間を西に進んで座敷に至る接客部分は、格式を重んじた構成となっています。



武家屋敷資料館 1階平面図



■修復にあたって

保存整備にあたっては、武家住宅の特徴を復原することを基本方針としつつ、今後の活用にも配慮しています。主屋の1階の内部は、歴史的な建築の雰囲気味わいながら、見学や会合などに自由に活用できるように復原に努めました。一方、昭和初期に建てられた台所部分や、改造で設けられた2階の居室は現状の修理にとどめています。

歴史的建造物を活用した個性的な公共施設として、地域交流や学習の場として、ぜひご利用ください。

耐震設計

兵庫県南部地震を経験し、歴史的建造物の多くが大きな被害を受けた事実に学び、保存整備にあたっては、独自の考え方で耐震設計をおこないました。

武家屋敷資料館は、伝統的な骨組みと空間構成を継承し、また内外とも土壁や焼板などの伝統的な仕上げとなっています。今回の保存整備では、こうした歴史的建造物の特性を損なわないように、目につかない部分で、構造用合板や金物を用いて、耐力壁や脚固め、屋根面などの一体的な補強を実現しています。たとえ巨大地震が襲ってきても、人命に関わる大きな被害が出ないような耐震性能を目標としました。

また、伝統的な町屋や民家の耐震補強を今後進めていく上で、参考事例となりうるように、特殊な技術ではなく、地場の建築技術と標準的なコストで施工できるような補強方法を採用しています。

耐力壁と脚固めによる補強

